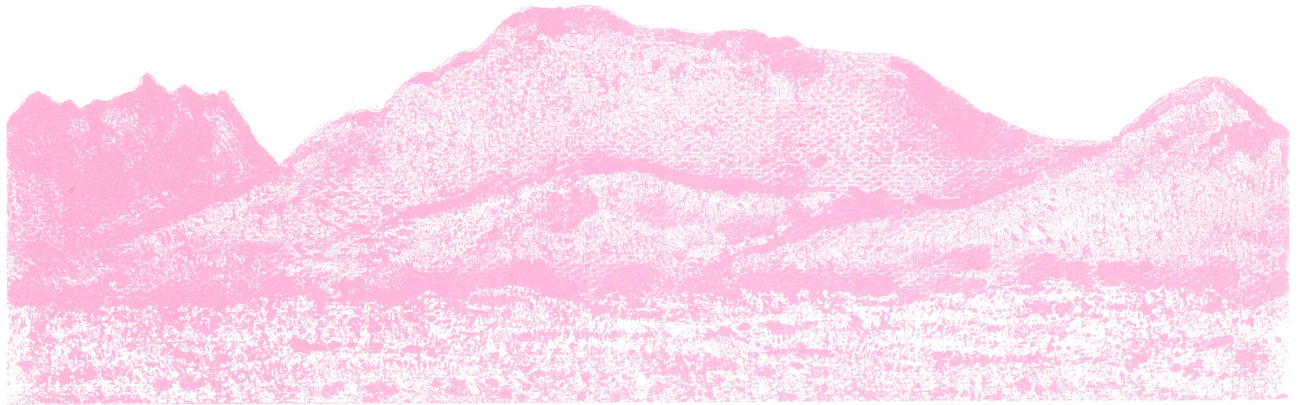


東光原

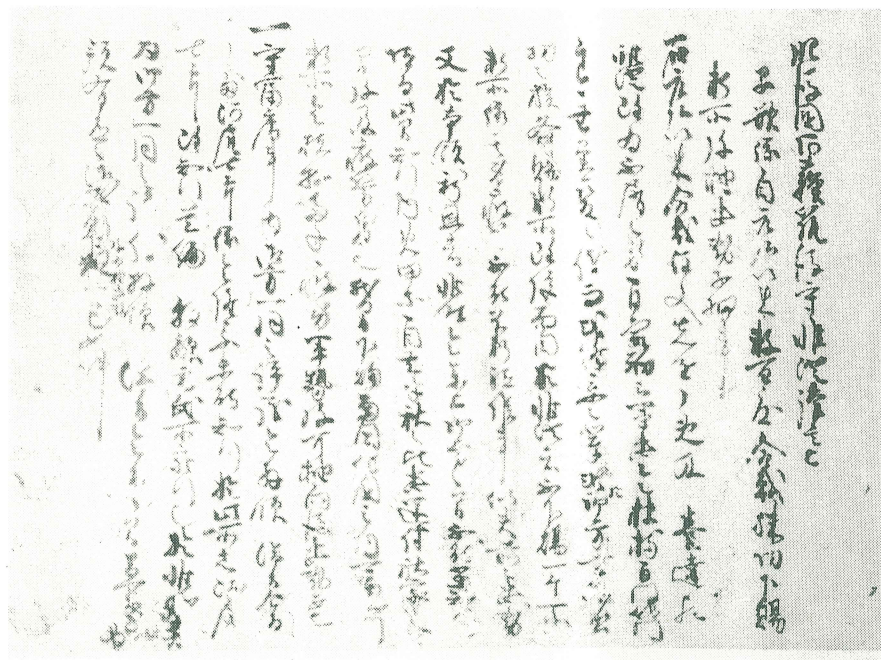
熊本大学附属図書館報



Kumamoto University Library Bulletin, No.6, Oct. 1993

目次

- 附属図書館長に就任して
 - 図書館の現状と当面の課題—
- 閲覧室にて
- シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介 5
 - 重要文化財 阿蘇家文書 (34巻36冊)—



阿蘇 貴 惟澄言上状草案 (阿蘇家文書より) 本文に解説

附属図書館長に就任して

— 図書館の現状と当面の課題 —



植村 啓治郎

このたび、思いがけなく附属図書館長を勤めることになった。学部ないし学科の図書室で図書委員を勤めたことはあるが、図書館の運営に参加した経験はなく、また、部局管理運営の仕事を離れて6・7年も経っており、この仕事をうまくこなす自信はない。ただ、永年お世話になった熊本大学に対して、最後のご奉公としてできる限り努力したいと考えている。現在、大学図書館は共通の重要な課題をかかえているが、本学の附属図書館にも固有の課題がある。まだ、十分理解できていない点が多いが、折角、表題のようなテーマを与えられたので、この機会に知り得た限りで、本学附属図書館の現状と今後の課題について述べ、学内の皆様のご理解とご協力をお願いしたいと考えている。

現在、国立大学の図書館は、新時代の図書館へ向けて体質を改善する時期にあるといえよう。そこで追及されている主要な課題は、①大学設置基準の大綱化のもとでの大学図書館の自己点検・評価、すなわち個性を生かした図書館機能の充実へ向けての自己改革と、②図書館業務の電算化による学術情報の提供サービスの充実の二つである。

本学附属図書館の場合、学習用図書館としては、ある程度機能していると評価されてきた。しかし、研究用図書館としての機能は十分に果たしていない。その理由は、ほぼ同じ条件をもつ他の大学と同様、創設以来の事情から、本学も研究用文献資料の大多数が、中央図書館に集中配置されるいわゆる「集中型」ではなく、学部ないし講座の研究室に分散配置されるいわゆる「分散型」であり、その傾向が他大学に比して著しいからである。この「分散型」は、専門の研究教育にとっての利便性ですぐれている反面、文献の重複購入や重要な文献の欠落を生ずる結果をもたらしている。いずれの方式にもそれぞれ長短があるが、収容能力の点で限界に達するところが出始めている「分散型」は、OPAC（オンラインによる目録検索システム）の充実に合わせ、また、予算の削減や図書費の高騰による目減り現象への対応としての予算の有効利用、図書の活用・管理等の面からも再検討の時期がきている。現在の「分散型」の長所は生かしながら、中央図書館の

研究用図書館機能を充実させる方向での「集中型」管理を考える必要があるだろう。かつて、黒髪北地区の部局長・評議員によって検討された再開発問題の報告書でも、同様の点が指摘され、特に文系の研究教育にとって文献資料が不可欠の手段であるとの観点から、附属図書館を北地区再開発のキー・ポイントとして場所的に4部局の中央に位置付けるべきであるとしている。この構想を、直ちに実現することは困難であろうが、現状で研究用図書館機能を発揮させるためには、時間的に何時でも利用できるカードによる自動入館システムを導入することが望まれる。

図書業務の電算化の面では、昭和62年から電算化システムが稼働し、閲覧・目録・雑誌等の館内処理や学術情報センターとの接続が行われ、OPACによる学内の文献資料の検索・利用、さらには、学内外の研究者のデータベースの蓄積・検索、ファクシミリによる複写物の伝送、ILL（図書文献の相互利用）も可能な段階になっている。ただ、本学図書館の最近の調査によれば、学内文献のデータベースの遡及入力（カード式によっていた図書目録に遡って入力すること）は、他の国立大学の多くがこれを実施し始めており、本学は遅れをとっている。規模に比べて職員数が少ない本学図書館の場合、従来からの業務で手一杯で、他大学のように自主的な努力も期待できない状況である。また、学内LANの仕様変更に伴うOPACの環境整備も、緊急に対応しなければならない課題である。

施設・設備の面については、現在の中央図書館は全体として狭隘になってきており、上記のような研究図書館機能を充実し、旧図書館の書庫を利用してなお限界に達している図書館の保存機能を確保するためにも、現在概算要求中の中央図書館の増築の早期実現は特に重要な課題である。

図書館の仕事をして、奇異に感じることは、ときには図書館は大学のシンボルといわれながら、予算面では、独立性もなく、プライオリティもないことである。管理運営費については、その相当部分を学内供出の大学本部運営費に依存しており、大学図書館に共通の課題の一つである遡及入力に取組むために自前で予算を

割振ることもできない。図書資料購入費についても、使用目的・範囲が限定されており、希望の多い重要な文献の欠缺を補い、バランスのとれた集書計画を行うなど、研究用図書館機能の充実のために、独自の判断で、予算を重点的に活用することも困難である。これらをかばうためにも、学内での特別枠の予算措置を要望したい（特に遡及入力のための予算は指定の大学以外には予算措置はしない文部省の方針である）。予算措置といっても、その総額は自然科学の科研費1プロジェクト分程度のことを考えている。これを回転資金的な資金として活用すれば、これらの業務を飛躍的に進めることが可能になると思われる（もっとも、予算が増えればそれだけ仕事も増える側面もあるが）。た

だ、その場合でも、予算の必要性や使用の内容については、図書館委員会の機能をより活性化するなど、十分に各部局と図書館との意志の疎通を図り、全学のコンセンサスを得られるよう努力する必要がある。予算がなければ何もできないと言うつもりはないが、その予算面の裏付けがあれば、そこに表された全学の意志を受けて、図書館の職員も、今以上に自信とプライドをもって、利用する立場からの意見を反映させながら、業務の改善・新しい時代の図書館の構築へ努力を積み重ねることができると信じている。

直面した問題についての考えを述べ、今後解決すべき問題についてのご協力をお願いして、就任のご挨拶に代えさせていただきます。

（法学部教授 商法）

閱 覧 室 に て

宮 田 健

今、変革の時代の中で図書館の役割が問い直されている。ニーズの多様化に伴い、多機能をもつことが望まれるが、大方の関心は情報の蓄積と提供の方法に集中している。図書館（薬学部分館を指す、以下同じ）の将来像として情報センターのようなものを予想し、希望する声が高い。図書や閲覧室の充実は、場合によっては、時代に逆行すると考えられている節がある。

実態を確かめておきたいと思い、過日久し振りに図書館で一日を過ごした。学生がどのように、どの程度閲覧室を利用しているかを特に見ておきたかった。

図書館の利用者は最近著しく増えている。過去3年間の年間平均入館者総数は約74,000人（うち夜間入館者約15,000人）で、薬学部の教職員・学生数520人からみれば大変な数である。学外・他学部からの利用者も多い。

確かに絶えず人が出入りし、複写機の利用は特に多い。しかし閲覧室に設けられた50の座席の多くが占有されることは余りない。教官が腰を据えている姿を見ることは稀である。必要な図書は借出すか複写後、多くの用務の合間を縫って自室で目を通す。情報の検索も自分の研究室のパソコンで行う。

時間帯にもよるが昼間閲覧席を占めるのは殆んど学部学生である。机上には教科書、ノート或はそのコピーが並び、採光がよく空調が効いた快適な自習室であり、恰好の仮眠の場と考えているらしい者も見受けられる。図書館は利用されても図書は利用されないという現実がある。

しかし、学生が閲覧室は居心地がよく、気分よく勉強できると考えていることは、図書館離れを起こさないという点だけにおいても大きな意味をもつ。図書館に馴染めば図書館蔵書にも関心をもつようになり、図書離れを少しは防げるかもしれない。いわゆるearly exposure効果の実を挙げるためには、もっとアピールする学生図書、特に学生選書を増やす必要がある。現在の、教官の選択による学生図書は研究図書の色彩が濃く、専門的に過ぎる傾向がある。

一方、約29,600冊の蔵書のうちには貴重図書も少なくないが、全く利用されず価値が無くなった図書・資料も多い。収容スペースの問題や遡及入力との関連もあって荷物になっている。薬系図書館としては戦前西日本随一であった歴史をもつが、蔵書数を誇る時代はとうに過ぎた。思い切った整理が必要な時期にきている。ディスプレイも工夫すればもっと良くなるであろう。

夕方から夜間にかけて閲覧室の様相はかなり変わってくる。実験に区切りのついた大学院生が増えてくることによる。彼らは独立した研究室を持たないこともあって多様な使い方をする。CD-ROMによる情報検索、データ整理、図表作成、複写等々…。活気に満ちており、多機能を備えた贅沢なオフィスを与えられたと同じような効果を挙げているように見える。終夜開館の便宜が図られるようになれば、さらに活用されるであろう。コンビニエンスライブラリーという言葉がふと思い浮かぶ。

学生時代を含め、33年余をこの薬学部で過ごしてきた。曾て図書館は閲覧室の代名詞であった。静謐で一種厳肅な雰囲気が漂い、適度の緊張感と落ち着きが得られた。精神を集中させ学習意欲を充める賦活効果があった。学問の聖堂という言葉が当て嵌まった。

図書館のイメージは明らかに変わりつゝある。閲覧室は死語になるかも知れない。多目的研究・研修室と

して変貌を遂げ主役の座を維持していくのであろう。精神の高揚と充足が与えられる場であることは不変である。本質的なものが失われることはない。

午後8時、閉館時間になり私は図書館を後にした。一抹の淋しさは過ぎたもの、安堵感があった。

(薬学部教授 薬物活性学)

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介5

重要文化財 阿蘇家文書(34巻36冊)

工藤敬一

今回は、南北朝の争乱の中で、一貫して南朝方の有力武将として活動し、常に恩賞を望みつつも、十分酬いられることなく、欲求不満のまま生涯を終えた恵良(阿蘇)惟澄の征西府宛の恩賞請求の言上状の草案を紹介する。

恵良惟澄は阿蘇氏の庶流で阿蘇末社の甲佐神社領を多くふくむ益城郡一帯に大きな勢力を持っていたが、本社大宮司惟時の女婿となって本宗家に入り、惟時没後は一時本社大宮司ともなった。元弘3年(1333)の鎌倉幕府討滅以来、彼は活発な軍事行動を展開する。建武3年(1335)には、九州から上京した尊氏に逐われて山門に避難した後醍醐天皇に神器を守って随従、帰国後は合志幸隆に奪われた菊地本城の回復を援け、庶子の武光を菊地氏の惣領に押し上げた。さらに征西將軍宮懐良親王の肥後入国の条件を整えるため肥後南部を中心に各地を転戦し、正平3年(1348)正月にはまっ先に親王を宇土津に迎え、以来菊地征西府の時代その柱石となった。

その間、豊後国の日田荘や玖珠荘、肥後国の守富荘、肥前国の曾根崎荘などを恩賞地(兵糧料所)として付与されたけれども、実質的にその地を支配し得た所はきわめて少なく、征西府への欲求不満はつのるばかりであった。彼の征西府に対する軍忠確認と恩賞請求状は、今日確認されるだけでも興國6年(1345)から正平16年(1361)まで15通を数える。本状はその中の一通の草案である。

本状の要旨はほゞ次のごとくである。

「謹んで言上します。早く元弘(鎌倉幕府討滅)以来数百度の合戦の功に対し恩賞地をいたゞきたい。自分是不肖の身であるが、最初から一貫して一門・他門の者を率いて南朝方(宮方)のために戦って来た。それ

なのに、近来降参して味方になった者が恩賞地をもらっているにもかかわらず、自分は一箇所の兵糧料所も与えられていない。そのためすっかり疲労(窮乏)してしまい、これでは今後の奉公はおぼつかない。自分の本領やかつてもらった新恩地は、惣領の惟時が宮方についたので、その支配するところとなり、自分は知行できなくなってしまった。またこの間しばらく支配して来た阿蘇社領も昨秋社家に返してしまったので、いよいよ窮乏状態となった。どうか肥後国でも他国でもよいから実際に支配出来る料所をいたゞきたい。それによってすっかり窮乏化している家来たちを救い、忠勤を励みたい。次に守富荘(現下益城郡富合町一帯)

阿蘇良恵 惟澄言上状草案

肥後國阿蘇筑後守惟澄謹言上

早欲依自元弘以來數百度合戰殊功下賜新所、弥抽忠勤子細事

右、元弘以來合戰注文先進了、既及 奏達歟、惟澄雖爲不屑之身、自取初

(マ)

云軍忠、令扶持自門他門、于今無異變之儀、而或降参之輩、或。御方□□

忠功之族、各賜新所、雖施面目、於惟澄者、不下賜一ヶ所新所、依其身疲

勞、不能不斷祀候事、似失前々忠勤、又於本領新恩者、惟時令参上御方之

間、不能當知行、隨而此間知行内免田等、自去年秋之比、悉還付社家之

間、弥及疲勞者也、然間、下賜當國他國之内可當知行新所、令扶持多年疲

勞軍勢、弥可抽向後忠勤□、

一、守富庄事、爲御方一同之評議、令拜領 繪旨令旨之處、河尻七郎依令降

參、未能知行、於此所者、河尻七郎雖知行、是偏 朝敵高氏所死行也、於

惟澄者、爲御方一同之評議、拜領 繪旨令旨之間、念□□爲預有道之御

成敗。粗言上如件、

弥爲抽忠勤

(尊氏)

は、宮方一同の評議で自分が料所として拜領した所であるが、当知行人の河尻七郎が宮方に降参したので、自分は未だに知行出来ないままになっている。河尻氏の知行は朝敵尊氏の宛行によるものである。それに対し自分は、御方一同の評議で当荘の支配権を認める諭旨・令旨を拜領しているのである。どうか道理ある成敗をいたゞき、よって一層の忠勤を励みたい」

この文章は草案で年紀を欠くが、他の関連資料からみて正平11年(1356)末から同13年(1358)初頭までに比定できる。というのは、正平11年6月の惟澄申状があって、守富荘は興国2年(1341)に自分が拜領の令旨をもらったが、現在知行している河尻廣覚が宮方に付き、その子七郎が征西府に出仕したため、自分の拜領は有名無実となっている、廣覚の権利は朝敵から与えられたものであるのに対し、自分は軍忠の功によるものであるから、自分の権利を保証して欲しい、と申請している。そして正平13年8月13日に、惟澄の主張を認める三度目の征西將軍宮の令旨が出されているからである。

ところで、恩賞としての兵糧料所は敵方の土地を奪つ

て与えられる。しかし敵であった者も降参すれば味方の軍事力となる。したがっていったん兵糧料所として給与されても、その土地の当知行人が降参すると、簡単に没収することはできず有名無実となることが多かった。中世には長年の当知行権はつよい権利として尊重されたからなおさらであった。そこに“降参半分の法”が成立する。すなわち、そのような場合には半分を当知行人に半分を新給人に与えるという解決法である。この場合も、さきにあげた正平13年8月13日の征西將軍宮令旨には、「恵良筑後守惟澄申兵糧料所肥後国守富庄半分地頭職事」と書かれ、惟澄に認められたのは半分の権利であった。

しかし正平14年になっても河尻七郎は征西府の命令に従わず、結局惟澄の守富荘支配は実現しなかったのではないかと思われる。そして先述のように惟澄の執拗な恩賞請求も正平16年をもって終る。そして懐良親王と菊地武光を中心とする大宰府征西府が全盛時代を迎える時、阿蘇氏は惟澄の子息惟村と惟武が北朝方と南朝方に分れて争うことになる。

(文学部教授 国史学)

退官記念に絵画を寄贈

去る5月12日、今年3月教育学部を定年退館された東政美名誉教授より絵画「GR・BL」(100号)一点の寄贈を受けた。

四ヶ月をかけて制作されたこの作品は、1971年に完成されているが、全体にグレーの色調が強く東名誉教授によれば、これは当時のベトナム戦争の影を色濃く表わしているものであるとの事である。

この作品は附属図書館「自由閲覧室」に展示され、入館者のひとときの憩いになっている。



本学教官寄贈著書紹介

(中央図書館)

日沼頼夫名誉教授

日沼頼夫対談集

日本の医学 上巻(内科系)、下巻(外科系)

日沼頼夫他著 最新医学社 1992.11

上出健二教授(教・被服学)

繊維産業発達史概論

上出健二著 日本繊維機械学会 1993.7

柳治男教授(教・教育社会学)

学校のアナトミア

—ヴェーバーをとおしてみた学校の実像—

柳治男著 東信堂 1991.10

山口隆男助教授(理・臨海実験所)

シーボルトと日本の博物学 甲殻類

山口隆男編 日本甲殻類学会 1993.3

医学部衛生学教室

三浦創教授退官記念誌

熊本大学医学部衛生学教室 1993.4

北野 隆教授(工・建築学)

城郭・侍屋敷古図集成 熊本城

北野隆著 至文堂 1993.4

図書館諸統計（平成4年度）

I 受入統計

① 年間受入統計

		中央図書館			医学部分館			薬学部分館			合計
		購入	寄贈・その他	小計	購入	寄贈・その他	小計	購入	寄贈・その他	小計	
受入 図書冊数	和漢書	11,438	1,656	13,094	388	611	999	177	48	225	14,318
	洋書	3,898	1,898	5,796	359	1,634	1,993	44	396	440	8,229
	計	15,336	3,554	18,890	747	2,245	2,992	221	444	665	22,547
受入 雑誌数	日本語	2,030	2,554	4,584	184	445	629	43	77	120	5,333
	外国語	1,535	313	1,848	581	69	650	86	1	87	2,585
	計	3,565	2,867	6,432	765	514	1,279	129	78	207	7,918
受入 新聞数	日本語	10	16	26	4	5	9	6	3	9	44
	外国語	3	5	8	1	0	1	0	0	0	9
	計	13	21	34	5	5	10	6	3	9	53

② 蔵書累計

		中央図書館	医学部分館	薬学部分館	合計
図 書	和漢書	619,080	65,658	13,906	698,644
	洋書	291,135	86,475	15,987	393,597
	計	910,215	152,133	29,893	1,092,241
雑 誌	日本語	9,380	1,684	267	11,331
	外国語	3,273	1,791	258	5,322
	計	12,653	3,475	525	16,653

II 利用統計

① 入館者数及び貸出数年間統計

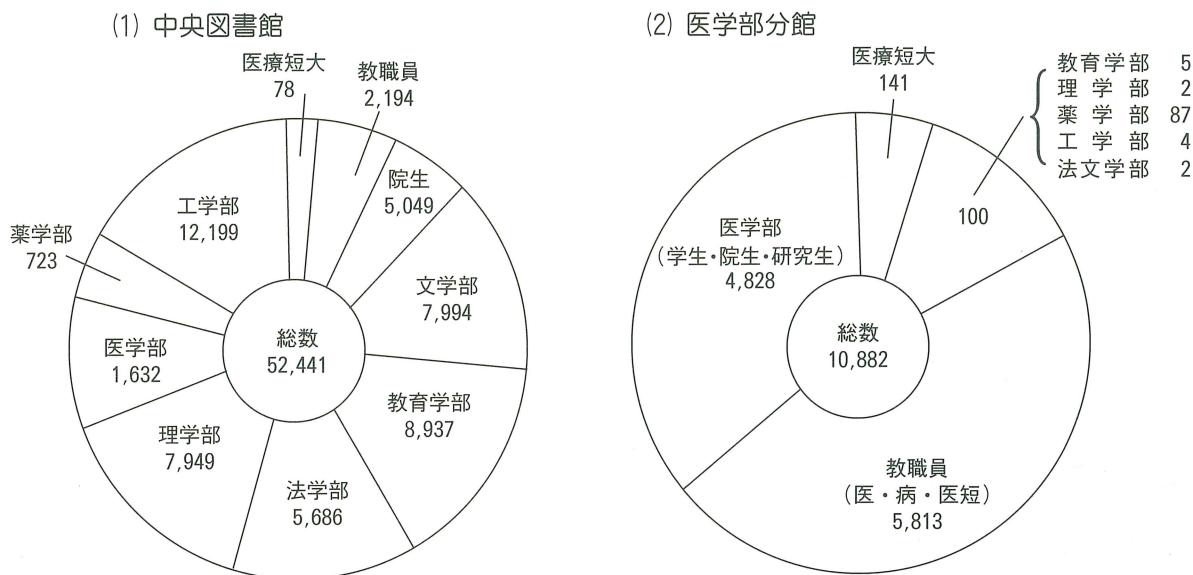
	中央図書館			医学部分館			薬学部分館		
	入館者数		貸出冊数 (図書のみ)	入館者数		貸出冊数 (図書・雑誌)	入館者数		貸出冊数 (図書のみ)
	入館者総計	(内数) 時間外入館者数		入館者総計	(内数) 時間外入館者数		入館者総計	(内数) 時間外入館者数	
平成4年4月	21,809	3,425	2,466	4,925	1,454	1,016	4,137	957	75
5月	30,220	7,017	4,398	4,395	2,224	1,019	3,490	1,586	92
6月	36,332	8,314	5,352	5,420	2,524	1,041	4,641	2,104	129
7月	27,725	3,768	3,281	6,379	757	836	4,756	554	44
8月	15,163	時間延長なし	1,364	5,627	時間延長なし	646	4,490	時間延長なし	24
9月	43,376	7,891	5,275	7,163	2,030	931	4,604	1,193	87
10月	39,101	8,627	6,141	6,514	3,599	1,067	5,719	2,334	96
11月	25,908	5,216	5,278	7,010	2,926	989	3,841	1,509	107
12月	25,489	5,936	5,044	6,713	2,505	842	4,115	1,786	130
平成5年1月	29,336	7,544	5,117	7,243	2,534	983	3,790	1,163	59
2月	41,853	10,300	6,073	10,337	4,158	854	4,711	1,852	98
3月	15,664	4,161	2,652	7,391	2,285	658	6,958	2,435	89
計	351,976	72,199	52,441	79,117	26,996	10,882	55,252	17,473	1,030

② 入館者数及び貸出冊数年次推移

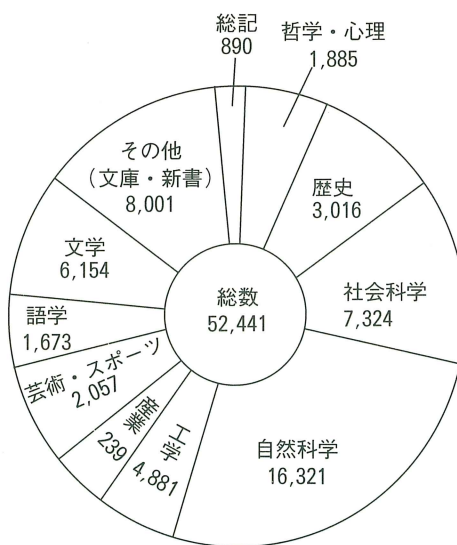
	中央図書館			医学部分館			薬学部分館		
	入館者数		貸出冊数 (図書のみ)	入館者数		貸出冊数 (図書・雑誌)	入館者数		貸出冊数 (図書のみ)
	入館者総数	(内数) 時間外入館者数		入館者総数	(内数) 時間外入館者数		入館者総数	(内数) 時間外入館者数	
昭和63年度	17,750 323,431	58,317	5,900 37,357	84,145	14,954	21,529	51,348	—	458
平成元年度	17,588 329,490	54,820	5,484 38,785	97,925	29,555	21,824	52,314	—	467
平成2年度	33,983 302,165	58,960	5,388 36,343	115,763	57,630	20,012	61,173	—	785
平成3年度	35,345 318,029	64,319	6,267 39,779	107,314	33,920	15,824	69,134	18,653	1,138
平成4年度	351,976	72,199	52,441	79,117	26,996	10,882	55,252	17,473	1,030

* 中央図書館の上段の数字は工学部分室の統計で外数である

③ 貸出者所属学部別貸出冊数内訳



④ 中央図書館分野別貸出冊数内訳



文献複写、相互貸借に関する統計は次号に掲載します。

第4回九州地区医学図書館員セミナー 開催について

平成5年7月8日～9日の2日間、医学部分館にて標記セミナーを開催いたしました。このセミナーは九州地区医学図書館員の資質の向上と人材の養成を目的として毎年1回行われているものです。今回は1日目に下記のテーマで参加者発表があり、午後はテクノ・リサーチパークを見学し、2日目に九大の朝倉専門員より「医学系図書館の今昔」と題して講演がありました。(参加者発表テーマ)

- 1.福岡大学図書館医学部分館における遡及入力について(福岡大学:明石利枝子)
- 2.目録作成時における図書と雑誌の区分について(熊本大学:濱崎千雅)
- 3.当館に於ける固有の標題を持つ逐次刊行物(洋書)の扱いについて(九州大学:安川澄子)
- 4.欧文雑誌目録の作成について(熊本大学:秋吉陽一郎)
- 5.外資系取次書店の納品処理について(九州大学:浅岡宏信)
- 6.相互貸借業務について(福岡歯科大学:篁通子)

(医学部分館)



平成5年度目録システム講習会を開催 (中九州地域講習会)

平成5年5月31日から6月4日までの5日間、目録システム講習会を開催しました。

この講習会は学術情報センターが受講機会の拡大を図るため、同センターが実施しているものと同等のものとして各図書館等と共催で開催されています。

3回目を迎える今回は、長崎大学をはじめ熊本商科大学・熊本女子大学・九州東海大学・熊本大学から計10名の参加がありました。

(情報管理課目録係)

日誌(平成5.5.1～8.31)

- 5.6 附属図書館係長会議
- 5.10 図書館委員会
- 5.19 学内LAN建設専門委員会
- 5.19 日本医学図書館協議会総会(於倉敷)
～22
- 5.28 学内LAN建設専門委員会
- 5.31 図書館委員会
- 5.31 目録システム講習会
～6.4
- 6.7 国立大学図書館事務部課長会議
～9
- 6.15 古典籍研修会
- 6.16 附属図書館係長会議
- 6.22 学内LAN建設専門委員会
- 6.22 第40回国立大学図書館協議会総会(於徳島)
～25
- 6.28 学内LAN建設専門委員会
- 7.1 附属図書館係長会議
- 7.6 学内LAN建設専門委員会
- 7.8 九州地区医学図書館員セミナー
～9 (本医学部分館当番)
- 7.18 平成5年度大学図書館職員長期研修
～8.6
- 8.19 学内LAN建設専門委員会
- 8.27 九州地区医学図書館協議会総会(於北九州)
～28

お知らせ

毎年秋に行っています当館主催の「(第10回)熊本大学附属図書館特殊資料展」を、下記の要領で開催いたします。

記

- 会 期 : 平成5年11月15日(月)～17日(水)
- 会 場 : 附属図書館自由閲覧室
- 出品資料 : 「重賢公御詩稿」他
- 講演会 : 演題「細川重賢の文事について」
講師 熊本大学教養部教授 西田耕三氏
日時 平成5年11月16日(火)13:30～15:00

東光原一熊本大学附属図書館報一第6号

平成5年10月

編集発行 熊本大学附属図書館

〒860 熊本市黒髪2丁目40番1号096(344)2111